

サイバー・キャンパス・コンソーシアム  
平成23年度 第4回看護学グループ運営委員会 議事概要

I. 日 時：平成23年12月17日（土）10：00～12：00  
場 所： 公益社団法人 私立大学情報教育協会事務局

II. 出席者： 宮本委員、仲井委員、石橋アドバイザー（ネット参加）

（事務局：井端、森下、平田）

III. 検討内容

看護学コアカリキュラム実現のための看護学における教育改善モデルについて、アンケート結果を踏まえて見直し、修正を行った他、モデル授業の点検・評価・改善についても検討し、案を作成した。

1. 教育改善モデル案について

・対面でのディスカッションも不可欠との意見については、モデル内の以下の箇所に「対面や」の用語を追加し、ICT と対面を組み合わせた取り組みであることを強調することにした。

「2.3 ICT を用いた授業のシナリオ」

② ……対面やネット上で事例紹介とミニ講義を計画する。

③ ……対面やネット上で基礎知識を学ばせる。

「2.4 ICT を用いた学習内容・方法」

④ ……チーム内で対面やネットを用いて身体的・心理的・社会的不確定要素と仮説を立てて…。

⑤ ……対面やネット上でディスカッションの情報整理マップを作成し、…。

・対面でも議論に参加できない学生はネット上でも参加できないので、そのための学習支援をどのようにすべきか、また授業デザインの評価も必要になってくるのではないかとの意見について、「3. 授業運営上の問題及び課題」に「④参加する学生の能力の状況に応じて、学習支援体制の整備を大学全体の問題として考えておく必要がある」を加え、大学としての対応の必要性を掲げた。

・モデルを実現するためには、教員のマンパワーが様々な現状であるとの意見については、来年度のもデルを具体化していく際に、教員の教育力も含めるため、そこで改めて検討することにした。

・学年を越えて学ぶシステムは現状では困難なため、学年ごとに積み上げるシステムでもよいのではないかとの意見については、この件は各大学の裁量に委ねられることから、モデルには反映しないこととした。

・その他、現状での教育体制やICT環境ではモデルは実現できないとの意見については、モデルは5年先を見据えたもので、その頃には解決できている可能性もあること、「3. 授業運営上の問題及び課題」でも課題として提示していること、また、各大学での対応すべき個別の課題であることなどから、モデルには反映しないことを確認した。

2. 授業の点検・評価・改善について

作成したモデルの提案以外に、モデルの授業を実施した結果、目標を達成できたかどうか（学生に能力が身に付いたのかどうか）を様々な角度、方向から授業を点検・評価し改善していく仕組みも必要との本協会理事会から要請を受けて、モデルに授業の点検・評価・改善を追加することになった旨、事務局より説明した。

そこで、本モデルにおける授業の点検・評価・改善について検討し、授業関連の教員全員がポートフォリオから学生の状況を確認し、到達内容と照らし合わせながら、担当教員、学生、専門領域のアドバイザーの参加による、点検・評価・改善のためのミーティングが必要であることを確認し、本モデルでの授業の点検・評価・改善の案として、以下の通り文章化し、次回委員会で完成させることにした。

なお、モデルには「3. 授業の点検・評価・改善」として挿入し、「3. 授業運営上の問題及び課題」は、「4. 授業運営上の問題及び課題」に変更することを確認した。

「3. 授業の点検・評価・改善」(案)

本授業は、看護学の領域、学年を超えたものであるため、授業に関わる教員、学生、専門領域のアド

バイザーが授業の進行や内容、事例についてのアンケートや学習ポートフォリオを共有し、対面やネット上で意見を述べ合い、外部のコンソーシアムなどの意見も踏まえながら総合的に評価・点検していく。

### 3. 今後のスケジュールについて

来年度については、モデルを実現するための教員の教育力（授業の構成力、デザイン力など）とはどのようなものであるのかについて検討し、さらに、今年度まとめてモデル（骨子）に例示となる文章、図表、イメージ画像などを追加して冊子として刊行することを再度確認した。

### 4. 次回委員会

次回委員会は改めて日程調整した上で、年度内に開催することにした。